



2012年9月5日放送

印象に残る症例①

斐川中央クリニック 院長 下手 公一

私は神経内科を専門としておりますが、その中の病気で頭痛という症状が一番多くあります。最も多い頭痛は筋収縮性頭痛という頭痛です。次に多い病気が片頭痛という頭痛です。これはあまり患者さんに認知されていなくて、単なる頭痛持ちと片付けられていることが多くありますが、日本人の頭痛持ちが3000万人いる中で、片頭痛患者さんはそのなかの3割から4割と言われております。また、筋収縮性頭痛と合併することが多いと、よく言われております。

この片頭痛は、遺伝性ということもありますが、コーヒーやチョコレート、チーズ、アルコールで悪化して、特に女性に多く、女性では女性ホルモンの分泌周期と関係して、毎月のように頭痛が出現して悩まされている患者さんが多くあります。また、気圧の変化にも弱く、梅雨や台風シーズンには毎日のように痛みを悩まされる人は多くあります。

この片頭痛に対して、トリプタン製剤という薬が出現して以来、発作時の治療はほぼ困ることはありませんが、トリプタン製剤を飲み過ぎると片頭痛を誘発するようになり、トリプタン製剤は薬価が高く、3割負担の保険がきいて1錠300円という値段の高さもあり、なかなかこの製剤をいつも飲むというわけにはいきません。

それで、片頭痛の治療で最も困るのが、発作予防ということになります。発作予防の薬にはロメリジンというカルシウム拮抗薬というジャンルの薬か、抗てんかん薬のデパケンという薬がありますが、それが標準的であるということぐらいです。有効率が50%程度で、有効であったとしても完全に予防することは難しいのです。それで治療に難渋していると

というのが現状です。

特に女性は生理前に片頭痛を伴うことが多く、生理痛も含めると痛みを伴う時期がとても長く、何とか痛みを漢方薬で少なくして欲しいと訴えてくる人は多くあります。日頃、この片頭痛に対して漢方治療を試みておりますが、有効な漢方薬も多く認められますが、これといった決め手はありませんでした。

私は、ここ数カ月の間に立効散という歯痛の漢方薬を、この片頭痛の患者さんに使うことによって、とても有効例を多く出しております。

まず、第1例目の患者さんの報告をいたします。49歳の女性です。X年1月に脈を打つような、ずきずきする頭痛で来院されました。その頭痛は、生理前や低気圧が来るときに特に認められて、前駆症状はありませんでした。

片頭痛を疑い、念のため頭部CTで異常がないことを確認して、片頭痛の発作予防に効果のあるロメリジンを投与しましたが、少しの効果があつたのみでした。痛みが強いときには、トリプタン製剤の1つであるゾーミッグで痛みは治まってくれるのですが、いつも内服するわけにはいかず、漢方薬を併用することになりました。腹診で水毒を疑い、五苓散エキスを投与しました。

次の外来受診時には、少し効果があるかという感想があつたために、冷え症を考慮して四物湯エキスを併用したところ、症状が軽快したために、しばらく五苓散+四物湯エキスで様子を見ることにしました。

その後、まずまずの経過でありましたが、やはり片頭痛の強い痛みが認められるために、呉茱萸湯エキス、川芎茶調散エキスの2剤に変更して調子が良くなりました。それで様子を見ていましたが、また強い痛みが認められて、X年+1年1月より水毒を強化して、瘀血の所見も認められたために、五苓散エキス+当帰芍薬散エキスを投与したところ、少しは効果があるものの、やはり強い頭痛が認められ、さらにはゾーミッグで痛みが治まらないときも多くなり、イミグラン皮下注射でやっと治まるような片頭痛が認められるようになりました。

いよいよ困って、何か良い漢方薬はないかと考えた挙句、歯痛に有効である立効散を投与してみたところ、長年悩まされてきた片頭痛がピタリと止まり、トリプタン製剤も使わずに、立効散の単剤でコントロールできるようになりました。

この患者さんの脈はやや沈、やや虚、太さは小で、腹診は右下腹部に瘀血の圧痛があり、小腹不仁も認められて、随証治療に従って立効散を選んだわけではありませんが、非常に喜んでいただいた症例です。

第2例目は、12歳の男性の患者さんです。2年前より拍動性の頭痛が認められるようになり、母親が片頭痛で治療中なので、母親が持っていたトリプタン製剤のマクサルートを内服させてところ頭痛が改善したので、片頭痛の可能性が高いと考え来院されました。

片頭痛の発作予防のロメリジンを投与ところ少し軽快しましたが、子供に今のうちから西洋薬を内服させることに抵抗があって、漢方治療を開始しました。

むかむかと片頭痛が同時にくることを参考にして、五苓散エキスを処方しました。少しは効果があるものの、完全には片頭痛が消失せず、立効散を処方したところ、ほとんど頭痛は出現しなくなりました。

3例目は、頭痛の中でも非常に激しい頭痛を伴うことの多い群発性頭痛です。針で目を突き刺すような痛みが2カ月続いて、市販の痛み止めで効果がなく来院されました。発作性でなく、痛みも激烈で、常に頭と目が痛くなるとの訴えで、群発性頭痛と診断いたしました。プレドニゾロン 5mg と五苓散エキスを投与したところ、少し痛みが和らいだので、2週間後にプレドニゾロンを 10mg に増量したところ、痛みはかなり良くなって3カ月が経過しました。酒を飲んだり、ストレスが増したときには痛みが出るとのことだったので、五苓散エキスを立効散に変更したところ、頭痛はほとんどなくなって、プレドニゾロンも 10mg から 5mg に減量できました。数カ月を経過した現在も経過は良好です。

片頭痛の漢方治療といえば、呉茱萸湯、五苓散、桂枝人参湯、当帰芍薬散、柴胡剤、桂枝茯苓丸、四物湯などが主な処方で使用されているのが、今ひとつこれぞという処方はありません。

立効散は歯痛のために作られた処方ですが、歯痛は三叉神経痛の痛みで、顔面から頭の痛みにも効くのではないかとの発想で、苦し紛れに片頭痛の患者さんに投与してみたところ、今回の症例のように劇的に効果があり、続いて何例も試みてみて、かなりの確率で効果があることが判明いたしました。

立効散の成分は、細辛、防風、升麻の鎮痛作用の強い生薬に加えて、竜胆と甘草は鎮痙作用が働き、鎮痛効果を高めています。特に升麻は顔面頭部の鎮痛効果があることが良く知られています。その他は一切の生薬は加えていなくて、顔面頭部に特化した鎮痛剤と、私は考えています。

片頭痛の予防のために、常に漢方薬の鎮痛剤を投与するのかなどの疑問もありますが、片頭痛は脳の外側の血管の収縮拡張から始まり、早めに治療しないと、どんどん悪化していくという特徴があります。また、いつ出現するかの予測は不可能に近く、西洋薬に比べて副作用が少なく、習慣性もない漢方薬の片頭痛の治療薬が望まれるところです。

そこで、立効散の有効例を得ることができて、さらに何例もの片頭痛患者さんに試してみても再現性を持って有効であることが分かり、今後の片頭痛治療の大きな柱になることは間違いないと考えています。